

2014 HNSCC

**山梨県立中央病院
耳鼻咽喉科**

2014年

対象485例の詳細

	N0	N1	N2	N3	Total
T1	130 ^{*1}	8	21 ^{*2}	7 ^{*2}	166 ^{*5}
T2	95 ^{*2}	17 ^{*1}	26 ^{*4}	2	140 ^{*7}
T3	66	13 ^{*2}	35 ^{*1}	4	118 ^{*3}
T4	14	12	29 ^{*4}	6 ^{*3}	61 ^{*7}
Total	305 ^{*3}	50 ^{*3}	111 ^{*11}	19 ^{*5}	485 ^{*22}

***M1: 22例(4.5%)**

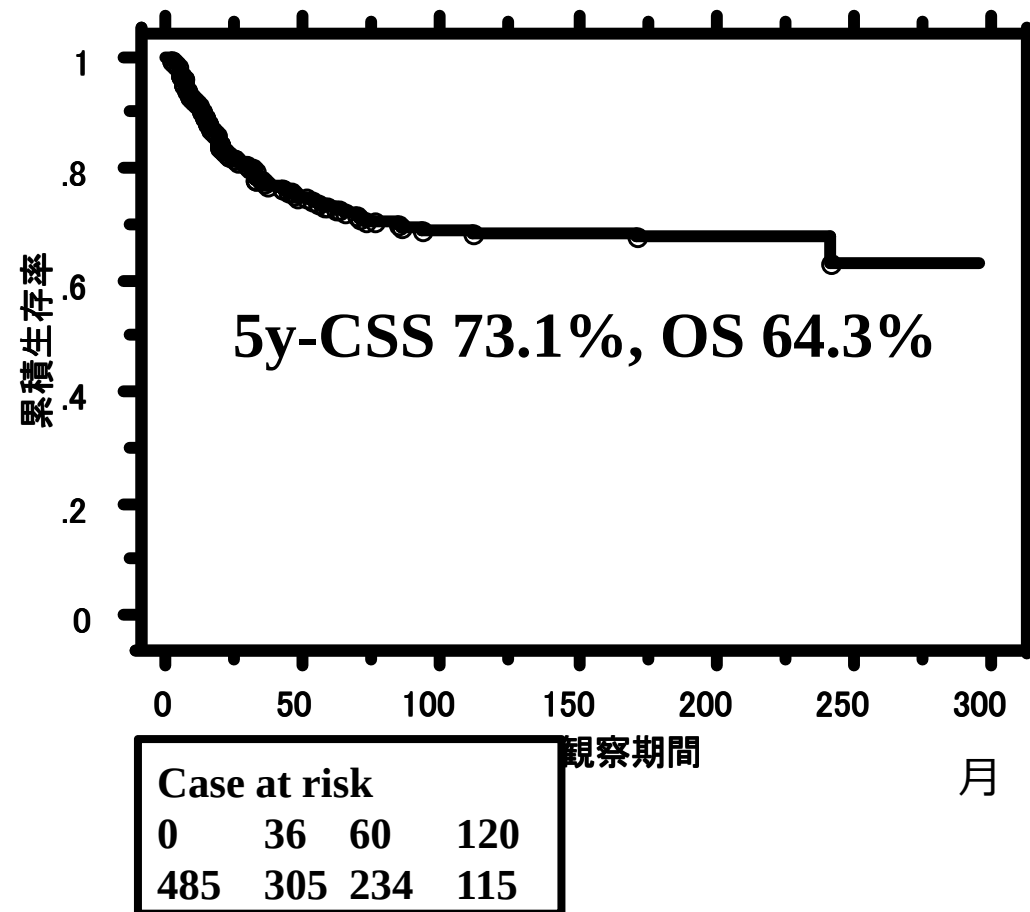
発症部位とStage / 症例数

	Stage				Total (%)
	I	II	III	IV	
Larynx	96	65	52	39	252 (52.0)
Hypopharynx	9	5	10	53	77 (15.9)
Mesopharynx	6	3	9	36	54 (11.1)
Oral	13	13	10	15	51 (10.5)
Epipharynx	4	9	10	6	29 (6.0)
Maxillary	0	5	8	9	22 (4.5)
Total (%)	128 (26.4)	100 (20.6)	98 (20.2)	159 (32.8)	485

1部位10症例以上を対象とした
進行度=(Ⅲ+Ⅳ/全例)×100は**53.0%**であった

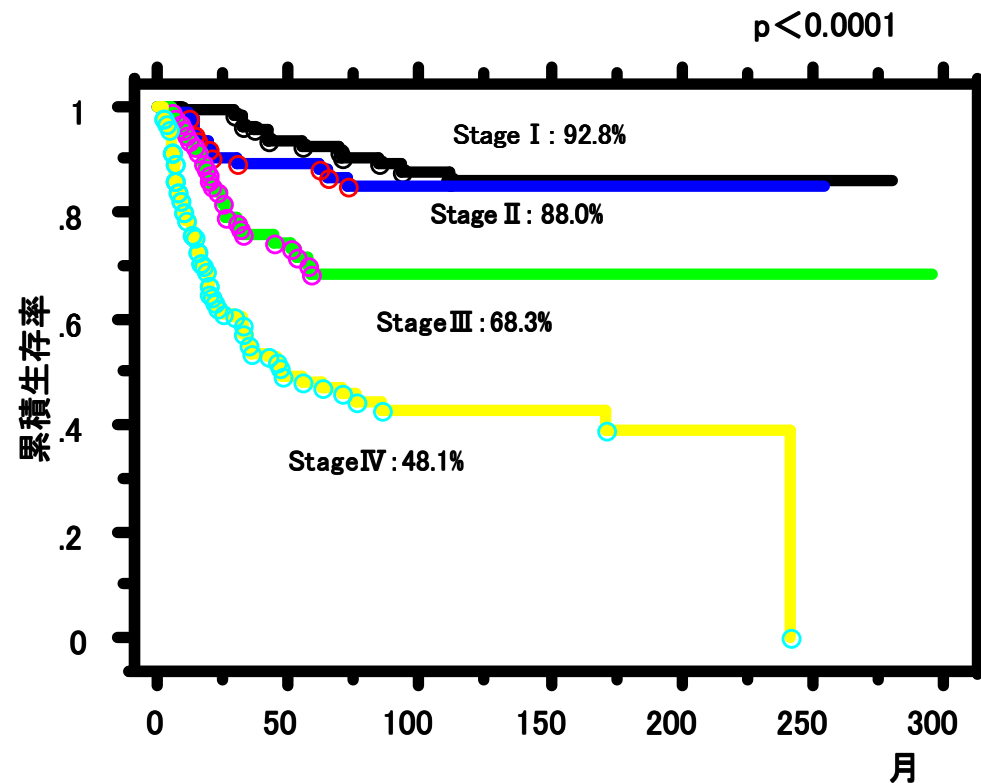
5年疾患特異的生存率

(5 year cause-specific survival rate: 5y-CSS)



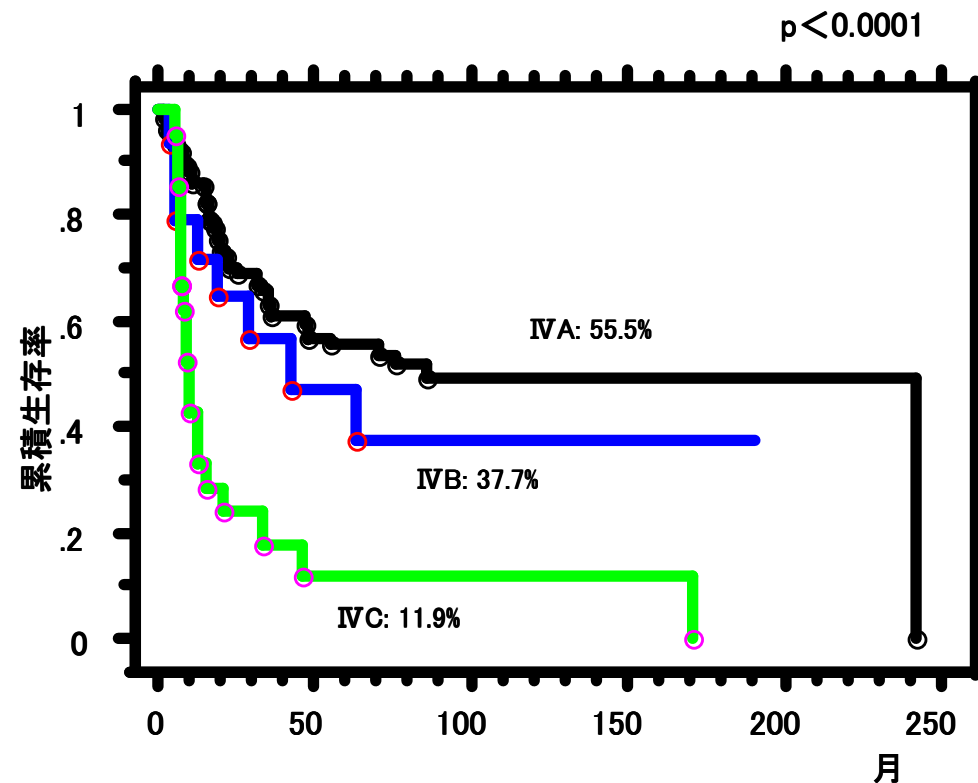
2010年と比べてCSSで0.9%上昇、OSで0.4%低下した

Stage別 5 y-CSS



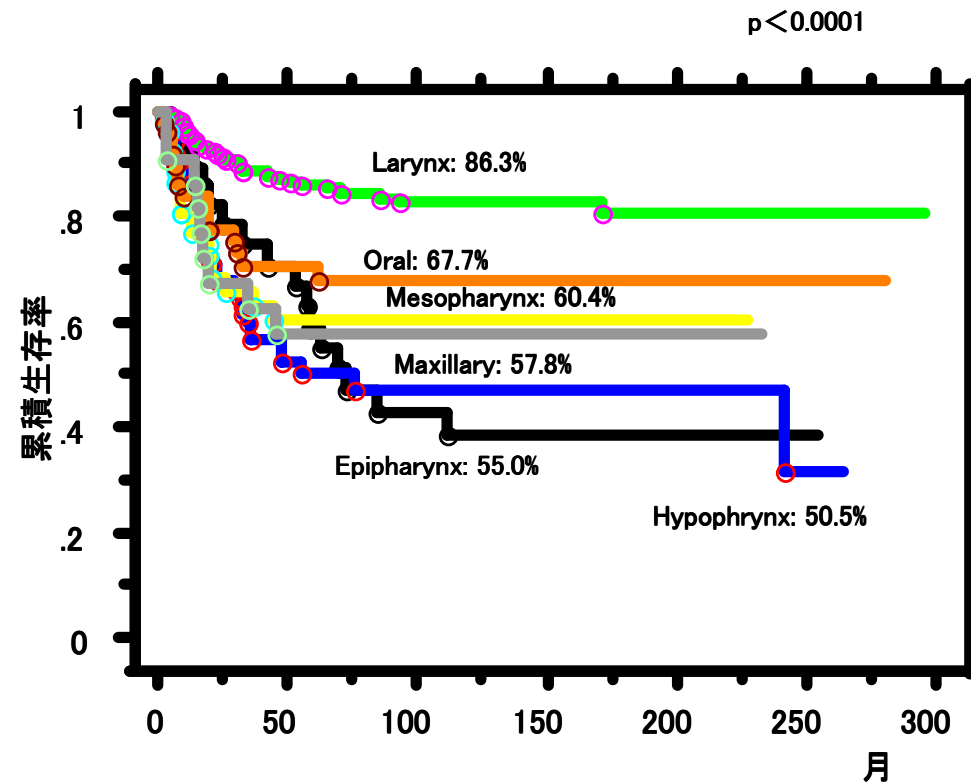
- 1) 2010年と比べて、stage I II III IVでそれぞれ0.4, 1.0, 0.9, 1.3%上昇した
- 2) Stage I と II では10年ほどの経過で有意差がなくなっていた

StageIV亜分類別 5 y-CSS



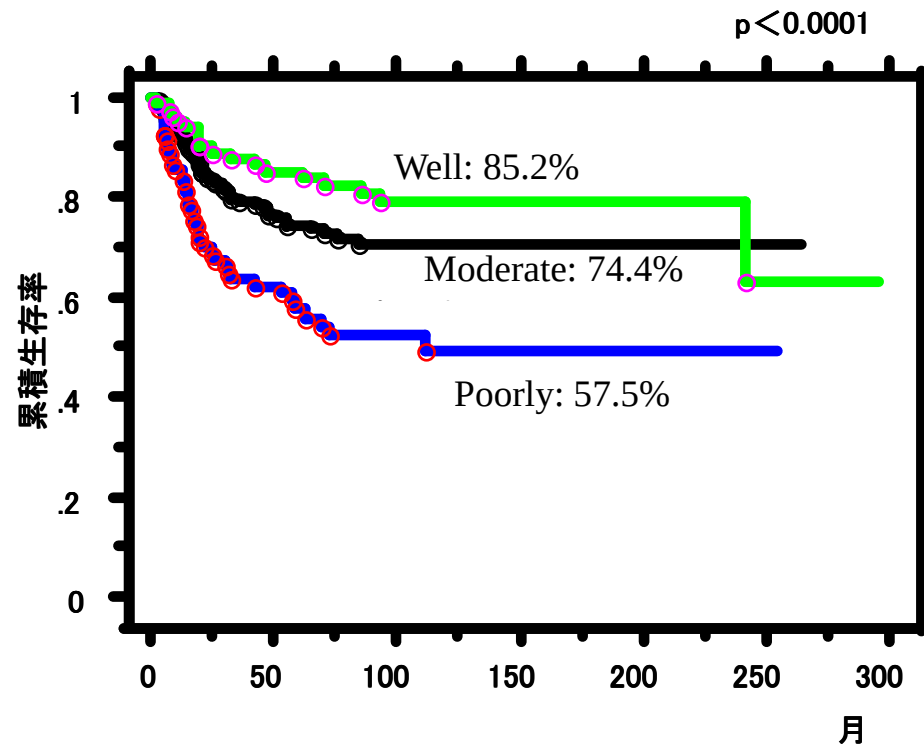
StageIV亜分類では進行度に応じたK-Mが描かれた

疾病別 5 y-CSS



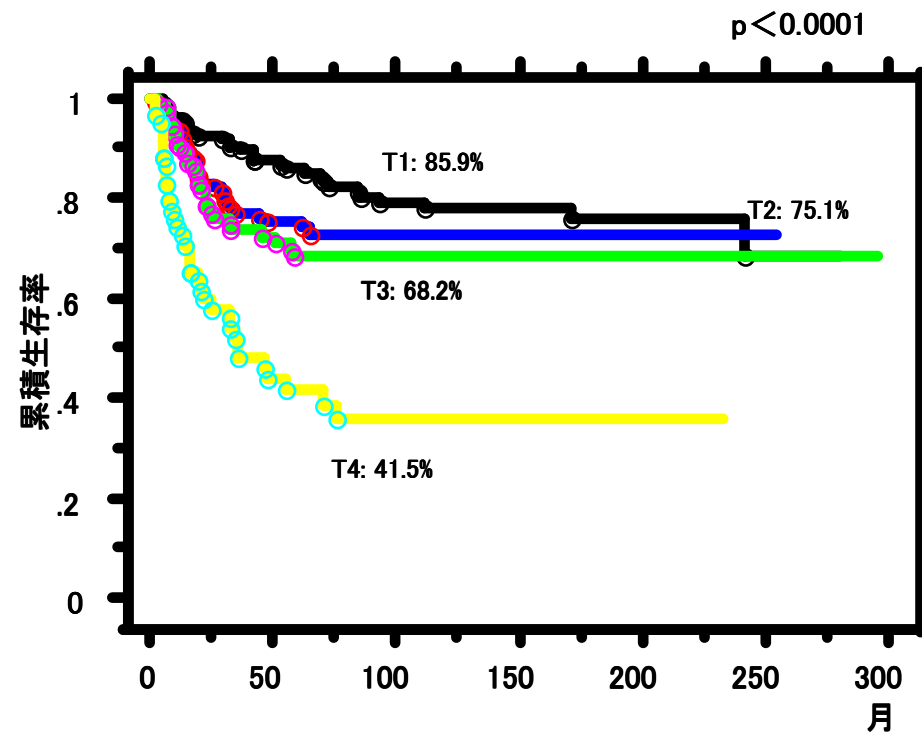
口腔、中咽頭、下咽頭では上昇したが、
上顎、上咽頭、喉頭で低下した。

分化度別5y-CSS



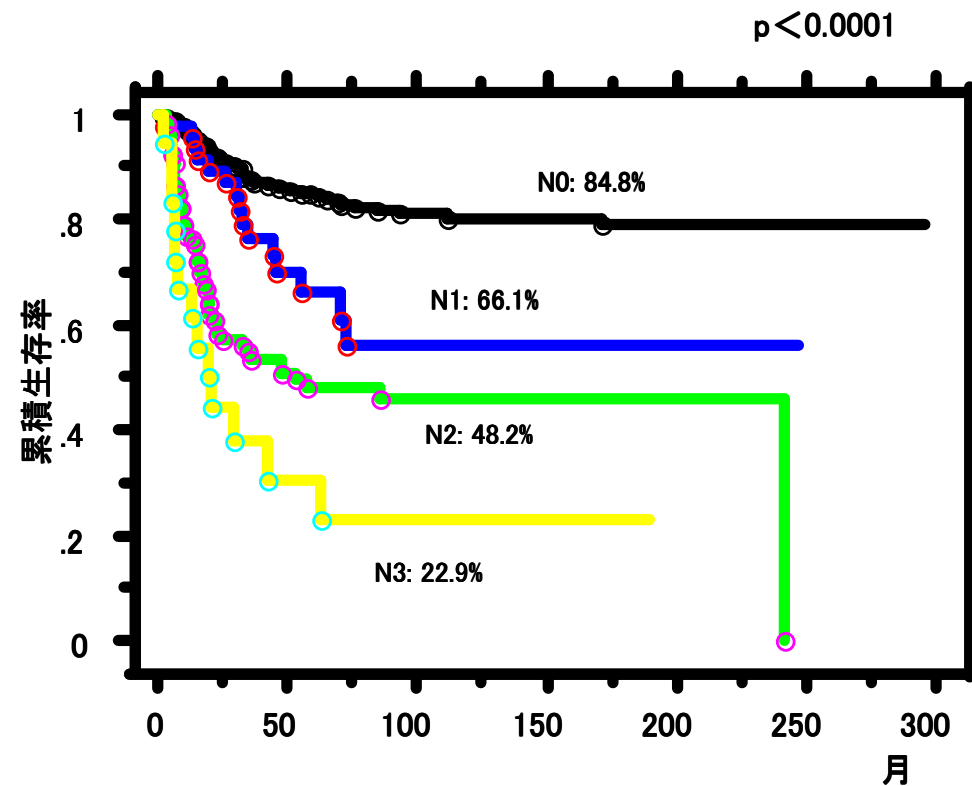
well 83例、moderate 198例、poorly 97例
判明し得た分化度では、高・中・低とK-Mが描かれた

T分類別 5y-CSS



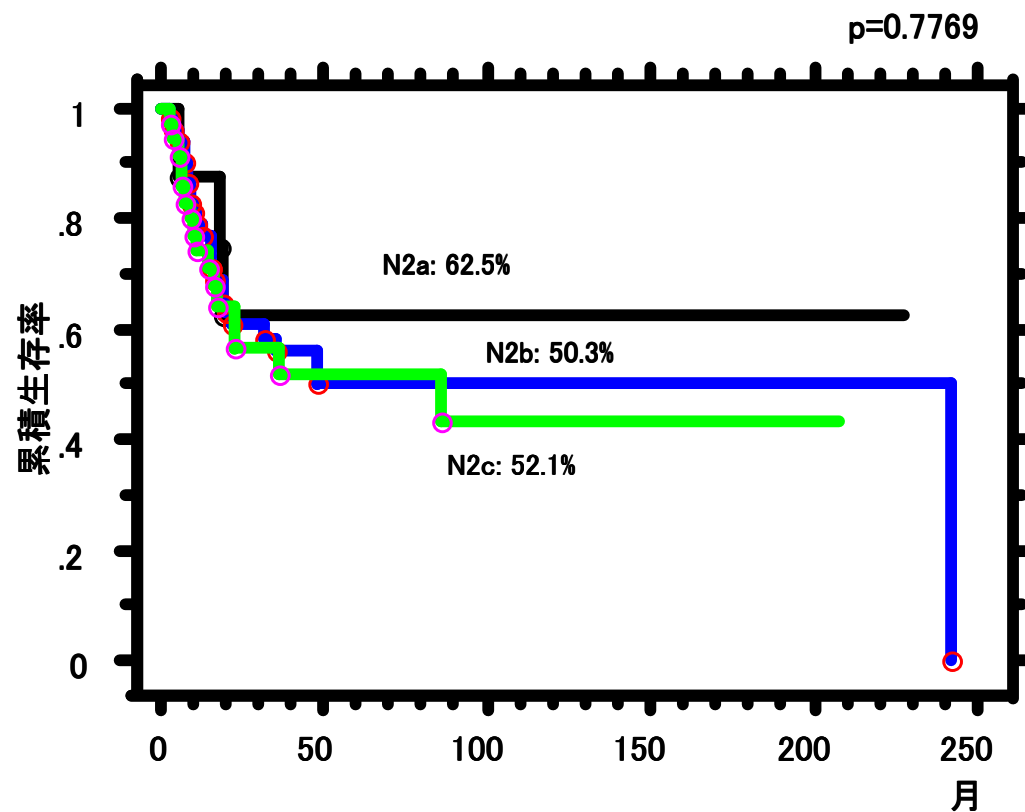
T1~3では、N分類に関係なくほぼ70~80%の5y-CSSであったが、T4では42%であった。

N分類別 5 y-CSS



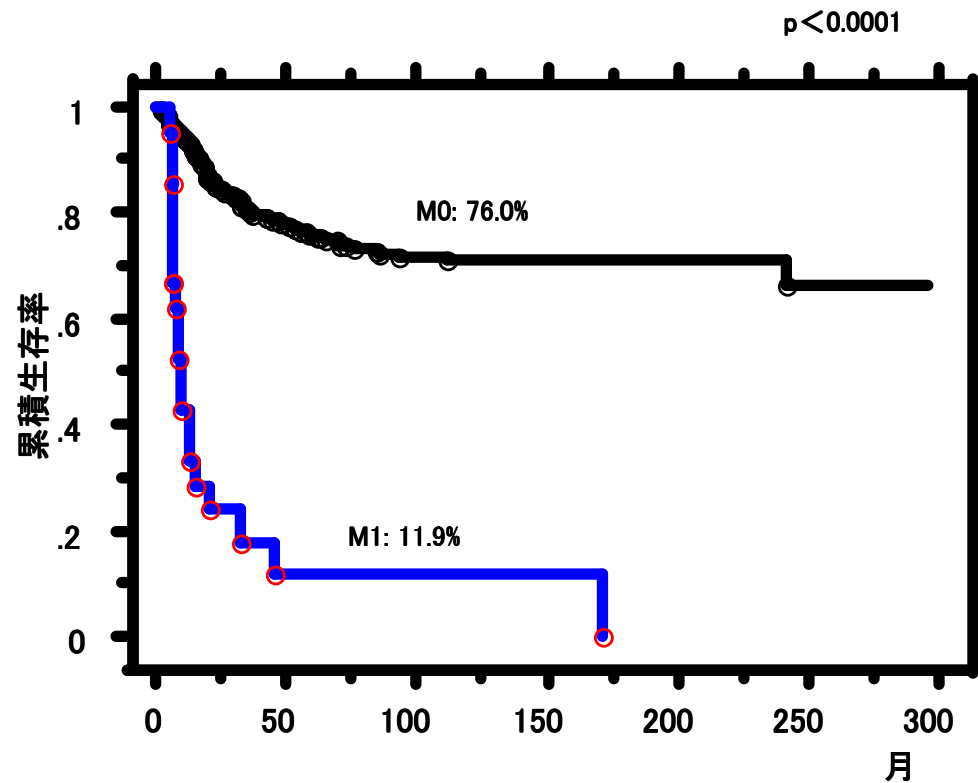
N亜分類では、進行度に応じて有意なK-Mが描かれた

N2亜分類別 5 y-CSS



N2亜分類では、5y-CSSで3群に有意差を認めなかった

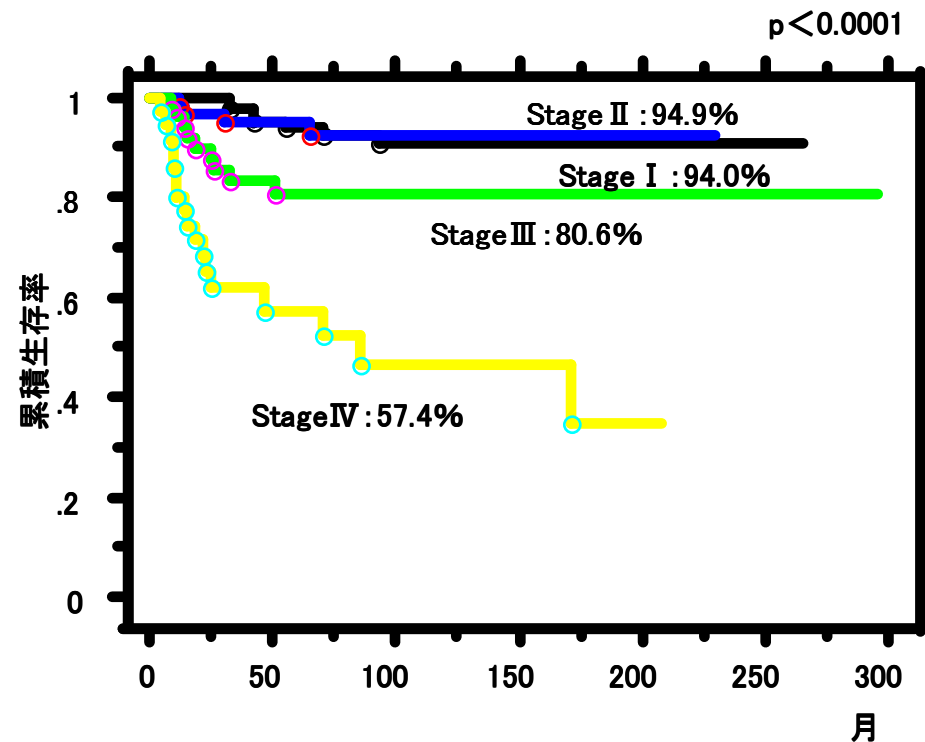
M分類別 5 y-CSS



M1, 22症例の5y-CSSは11.9%であった。

Laryngeal Ca

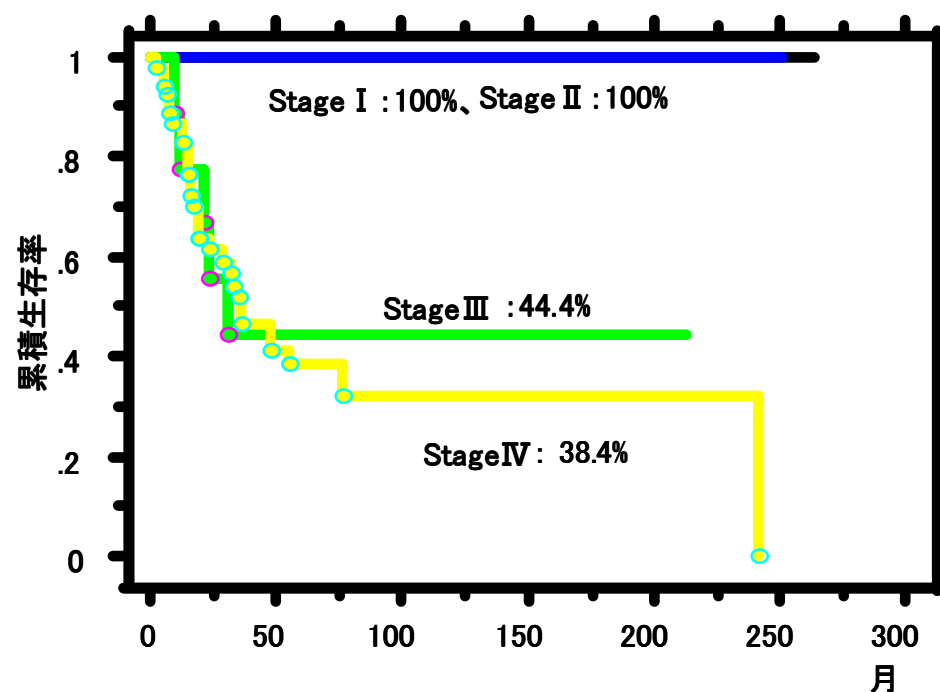
5y-CSS 86.3%



対象が252例と多いため有意なK-Mが描かれた。
StageIVは57.4%と低いですが、有意差を検定すると差異はなかった。

Hypopharynx Ca

5y-CSS 50.5%

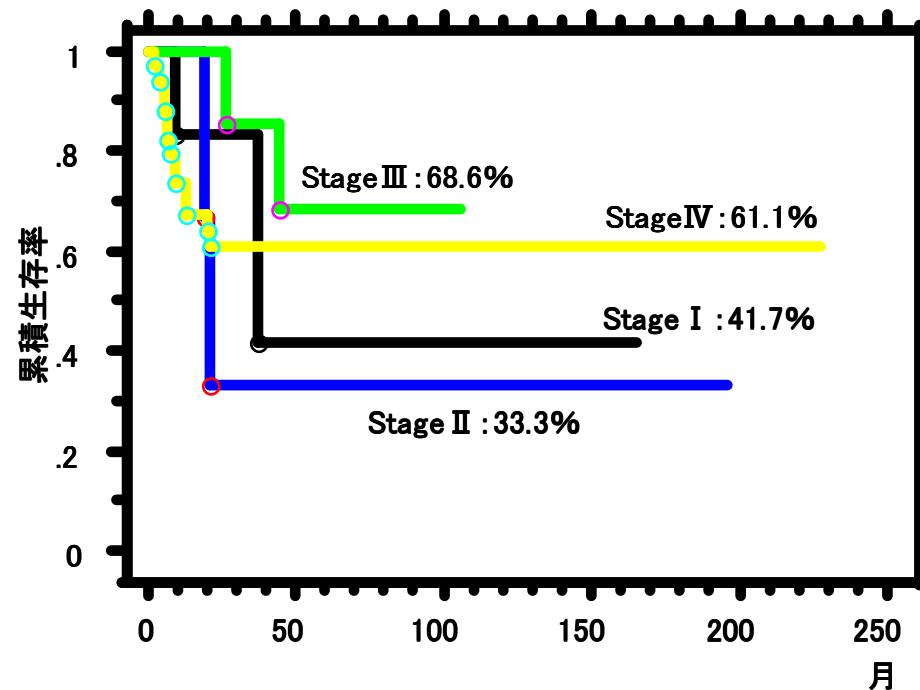


下咽頭早期癌症例の5y-CSSは100%であった。
一方進行癌は相変わらず50%を切っていた。

Mesopharynx Ca

5y-CSS 60.4%

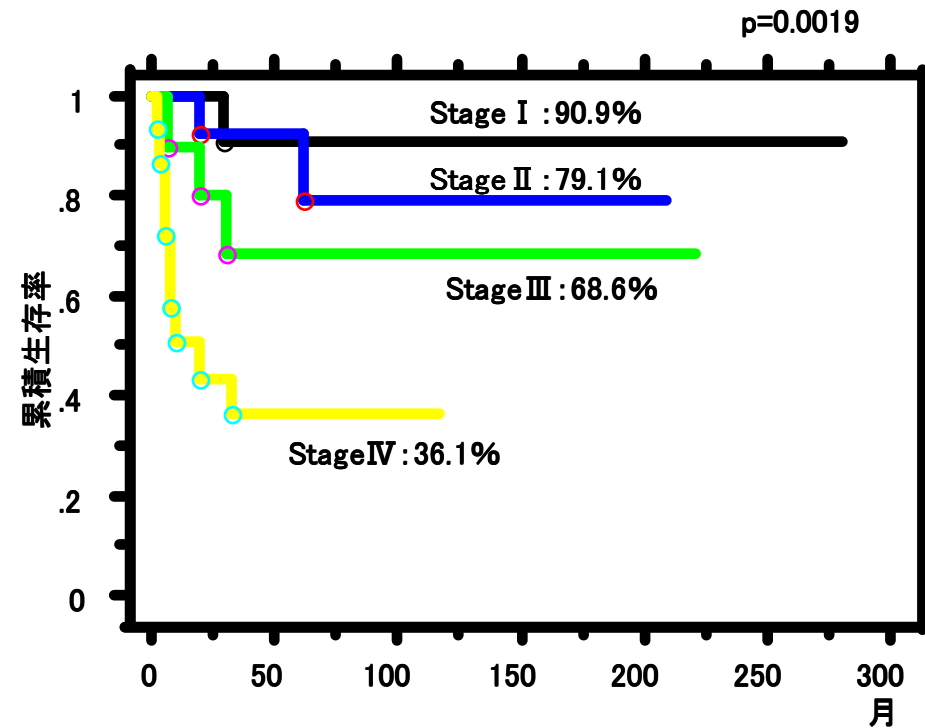
p=0.6180



Stage I + II 症例は数も少なく、早期の症例が多く、経過中遠隔転移の発症も多く認めた。PETが行われるようになり、up-stageが多くなった。一方、進行癌では他施設との非劣性はなく、特に側壁型で三者併用例では予後良好であった。

Oral Ca

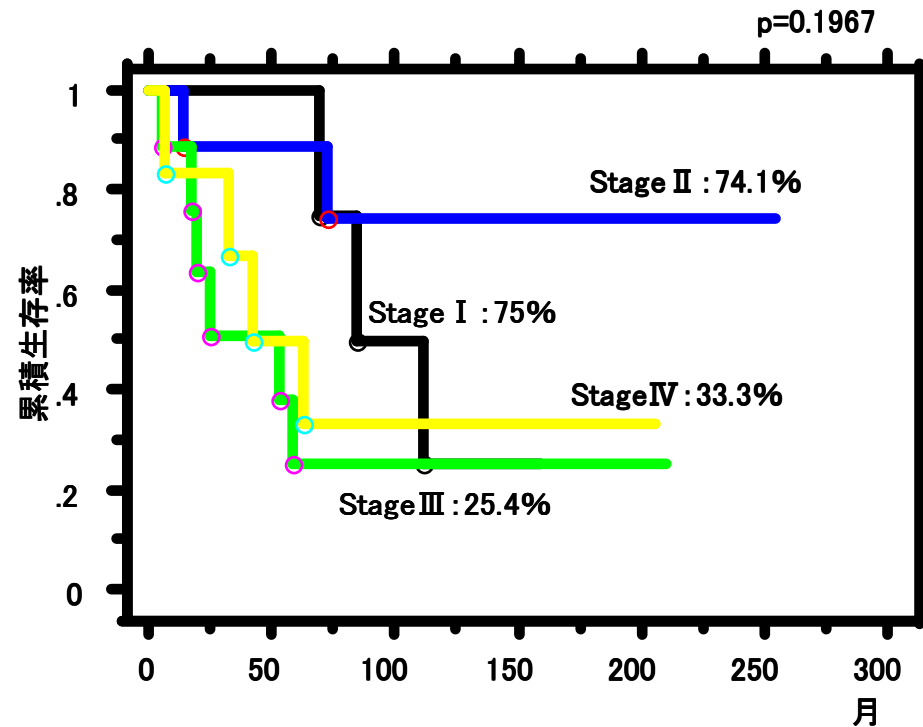
5y-CSS 67.7%



有意なK-Mが描かれたが、StageIVは遠隔転移のため他施設より低値であった。

Epipharynx Ca

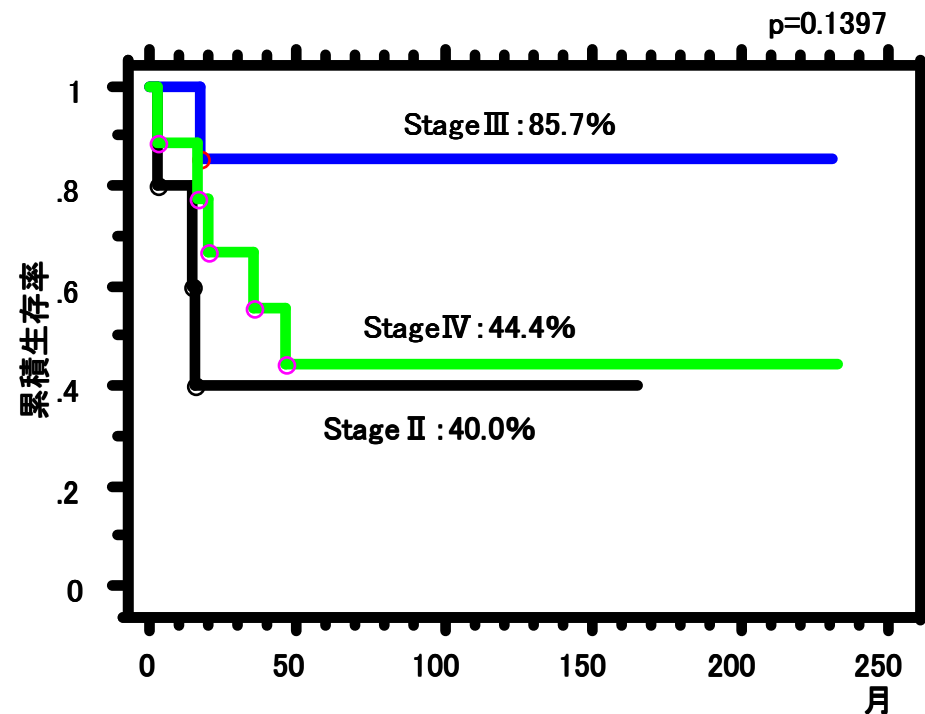
5y-CSS 57.3%



症例が少なく、秩序立ったK-Mが描かれていない。また、5年経過後にstage I の再発を認めた。

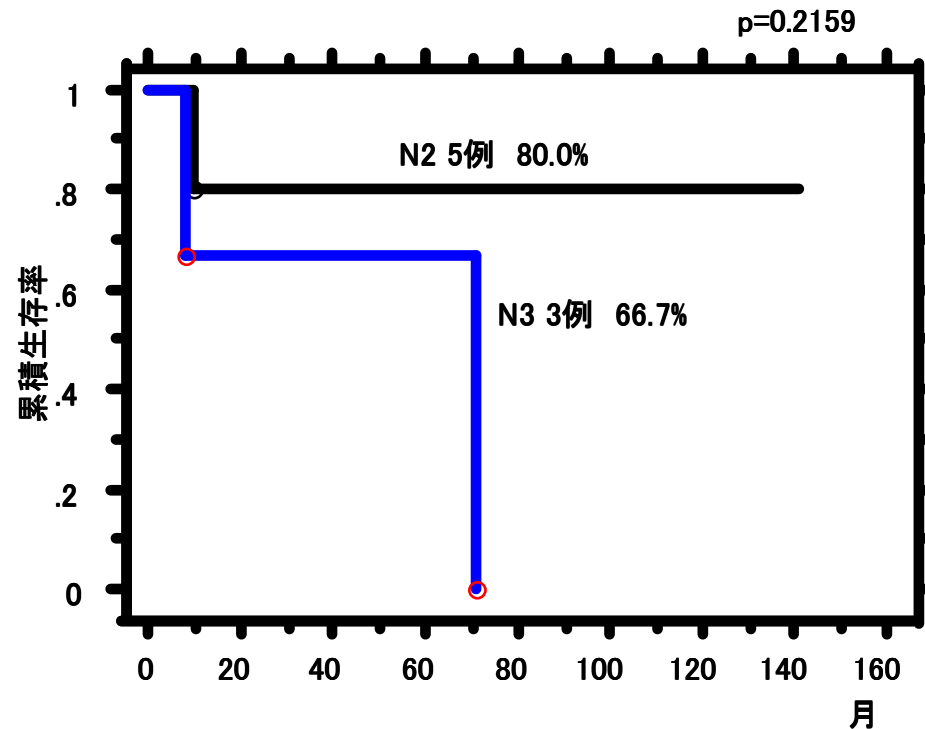
Maxillary Sinus Ca

5y-CSS 57.8%



症例が少なく、秩序立ったK-Mが描かれていないが、stage IIIは良好であった。

Primary unknown cervical SCC 5y-CSS 75.0%



より良い結果の報告もみられるが、N2~3では良好な5y-CSSと考えられる。